

## 指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	土木建築部河川課
評価対象期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日

## 1 指定概要

施設概要	名称	大分県リバーパーク犬飼	施設種別	レクリエーション・スポーツ
	所在地	大分県豊後大野市犬飼大字田原字舞田		
	設置目的	大野川の優れた景観を生かし、スポーツ及びレクリエーションの場を提供することにより、県民の健康で文化的な生活の向上を図る。		
指定管理者	名称	豊後大野市		
	代表者名	豊後大野市長 橋本 祐輔		
	所在地	大分県豊後大野市三重町市場1200		
指定管理業務の内容	① リバーパーク犬飼の施設等の維持管理及び修繕に関する業務 ② リバーパーク犬飼の利用の受付及び案内に関する業務 ③ リバーパーク犬飼の利用の促進に関する業務 ④ 前各号に掲げるもののほか、県が特に必要と認める業務			
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし			
指定期間	平成25年4月1日～平成30年3月31日(5年間)			

## 2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	
1	施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み
	(1) 施設の設置目的の達成
	① 計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。
	② 施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。
	③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。
	④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。
	【所見】
	○ リバーパーク犬飼は、開設当初から県が整備する多目的グラウンドと艇庫、豊後大野市(旧犬飼町)が整備するキャンプ場、テニスコート、アスレチック等を市が一括して管理運営している。
	○ 多目的グラウンドは、1面を冬季にも利用できるよう冬芝を張り、利用者数は毎年1万人程度で推移している。24年度の利用者も10,200人で目標の10,500人をほぼ達成した。これは、クラブチームや県内の高校、中学校のサッカー部の継続的な利用があり、それに大会や合宿などの利用が上乘せされるという利用形態が定着しているためであり、芝のコンディションを維持するうえでは適正な利用状況といえる。
	(2) 利用者の満足度
	① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
	② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
	③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
	④ 利用者への情報提供が十分になされたか。
	⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

- 「利用者満足度調査」を以下の項目で行った結果、いずれの項目も満足度の高い結果となった。
  - ① 利用手続きの容易さ
  - ② 職員の対応の親切さ
  - ③ 職員の説明の分かりやすさ
  - ④ 施設の手入れの状態
  - ⑤ トイレ、シャワー室の清掃の状態
  - ⑥ 利用料金の設定
- 職員による現地調査においても、清掃等管理状況等は良好であった。
- 利用者からの要望によりサッカーゴールネットを更新した。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- ① 施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

【所見】

- リバーパーク犬飼は、指定管理施設の管理運営費を利用料金で賄うこととしており、県からの委託料の支出はない。  
指定管理施設の維持管理にかかる経費の内、人件費等は市の管理するリバーパーク犬飼と共通経費としている。  
管理経費は芝の維持経費が年間約780万円と最も高く、特に冬芝の維持管理に400万円程度を要している。  
このため、冬芝を張らず1月から3月の間グラウンドの使用を中止することで大幅な経費の低減が可能となるが、豊後大野市では、冬季の利用者の利便を図るため冬芝へのオーバーシードを継続して行っている。

(2) 収入の増加

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

- 多目的グラウンドの利用状況は年間1万人程度で推移しており、年間250万円程度の利用料金収入である。  
収入を増加するためには、この利用者(利用時間)を増やす必要があるが、芝のコンディション維持との兼ね合いで現状の年間1万人の利用がほぼ限界となっている。また、利用料金の値上げも、現状の料金が他のサッカーグラウンドに比べ割安とはいえないため難しい。

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況

- ① 施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。
- ③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

【所見】

- 施設の管理運営は、隣接する市管理のリバーパーク犬飼と一括してベテラン職員が合理的かつ適切に対応し、利用者満足度調査においても、職員の対応は高評価を得ている。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ① 関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。
- ② 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。
- ③ 利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
- ④ 施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。
- ⑤ 管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
- ⑥ 防犯、防災対策等の危機管理体制が適切であったか。
- ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

## 【所見】

- 施設の利用受付に当たっては、大会の開催日程などには配慮しつつ、施設設置条例及び関連規定等を遵守し、利用目的を確認し、公平・平等な取り扱いを確実にしている。また、適正なスタッフの配置により、適切な安全管理に努めている。

## 【総合評価】

## 【所見】

- 施設は市のリバーパーク犬飼と一括して行うことで効率的・効果的な管理運営が行われており、利用者の満足度も高い。事業収支に関して、多目的グラウンドは芝生のコンディション維持との兼ね合いで利用者(利用時間)をこれ以上増やせない状況にあり、冬芝へのオーバーシード等利用料金を上回る経費をかけて管理運営を行う者は他にいない。

## 【今後の対応】

- 現在、豊後大野市ではジオパークの認定を目指しており、認定を機に新たな観光ビジョン(ジオツーリズムやスポーツツーリズム)を策定する必要がある。この計画にリバーパーク犬飼がどのように位置づけられるか、その動向を踏まえつつグラウンドの人工芝化等、利便性の向上や管理費用の低減について慎重に検討する必要がある。

## 【指定管理者評価部会の意見】

- カヌー場として九州でも数少ない貴重な施設であり、豊後大野市所有の隣接施設との一体的管理により効果を高め、利用者満足度で4段階中3.6点を獲得するなど、ベテラン職員を中心に適正に運営されていると評価できる。
- 多目的グラウンドにおいては、高額な費用負担等芝の維持管理に苦労している。公園全体の存在価値のあり方と主な利用者の競技レベルに合わせて管理コストを検討する必要がある。
- 目標指標である利用者数は未達成であり、豊後大野市のジオパーク・スポーツツーリズム推進と連携して、さらなるスポーツの拠点として利用が拡大されるよう期待したい。